

水温情報

第3号 Ver.2

沖縄県水産試験場

901-0305 沖縄県糸満市西崎1丁目3番1号

電話 098-994-3593・3597

ファクシ 098-995-2357

担当者 漁業室 下條 武

e-mail:shmojotk@pref.okinawa.jp

沖縄県水産試験場（場長：糸満盛健）は、調査船「凶南丸」、耐久性大型浮魚礁「ニライ」及び、（株）有村産業の協力によりフェリー「飛龍21」で流れや水温を観測しています（フェリーによる観測は西海区水産研究所との共同研究です）。これらの水温観測の結果、最近、沖縄周辺海域が高水温となっていることが分かりました。1998年夏、沖縄周辺海域の水温は非常に高く推移しました。この結果、各地でサンゴの大規模な白化現象が起きました。白化したサンゴの一部は回復しましたが、多くは死亡し、沖縄のサンゴ礁漁場に大きな被害をもたらしました。また、高水温は魚類養殖、クルマエビ養殖、海藻養殖にも大きな影響を及ぼし、パヤオで釣れたマグロの「ヤケ」現象にも影響したとされています。

図1 鉛直水温観測結果

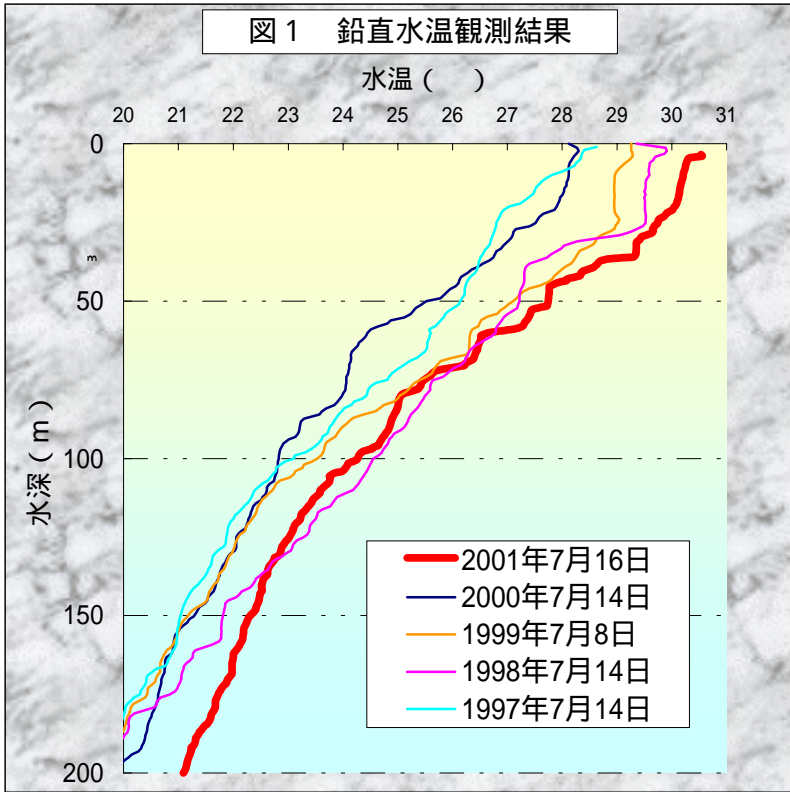


図1は、調査船「凶南丸」で行った沖縄本島南観測点P-8（北緯25度58分、東経127度42.5分）における海面から水深200mまでの鉛直水温観測結果です。過去4年の7月中旬の状況と比較すると、今年は海面から水深50mまで水温が高くなっています。これはサンゴの白化が問題となった、1998年の水準を上回るものです。本年7月沖縄本島南部で異常潮位が観測され、その原因として暖水渦が挙げられています。この暖水渦もP-8での高水温の原因の一つと考えられます。

図2 P-8 水深10mの水温

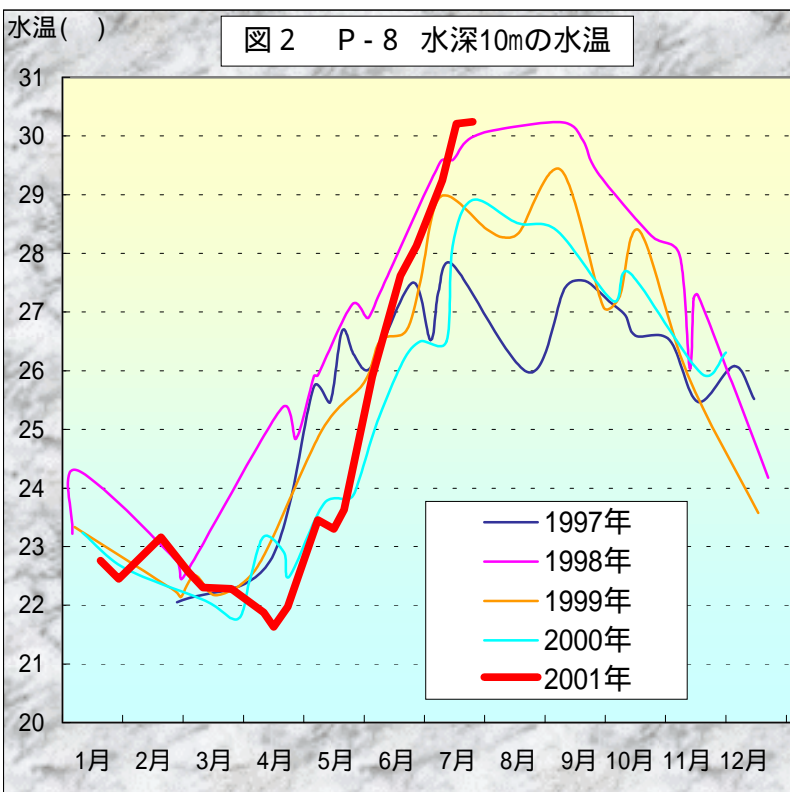
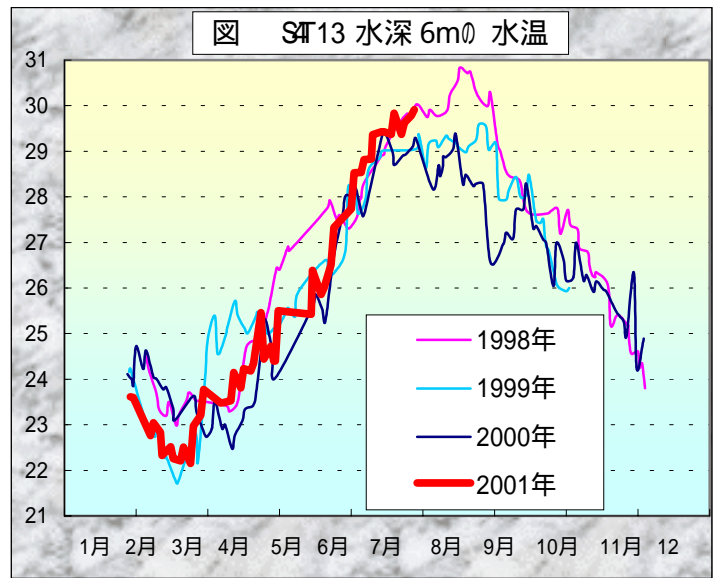
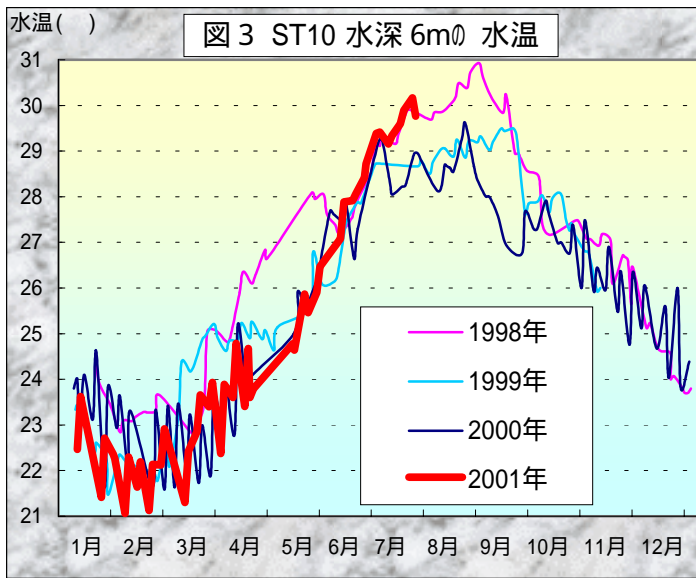


図2は、P-8における水深10mの水温観測結果を過去5年間月日順に並べたものです。今年の水温は4月及び5月は例年より低かったのですが、6月以降急激に高くなり、現在も高水温が続いています。



高水温は沖縄本島に限ったことではありません。図3、4は、フェリー「飛龍21」で行った宮古島北（ST10）及び、石垣島北（ST13）における水深6mの水温観測結果です。今年の1月から6月までは、過去4年と同じもしくは低い傾向だったのですが、6月以降水温は上がり、1998年と同等の水準となっています。

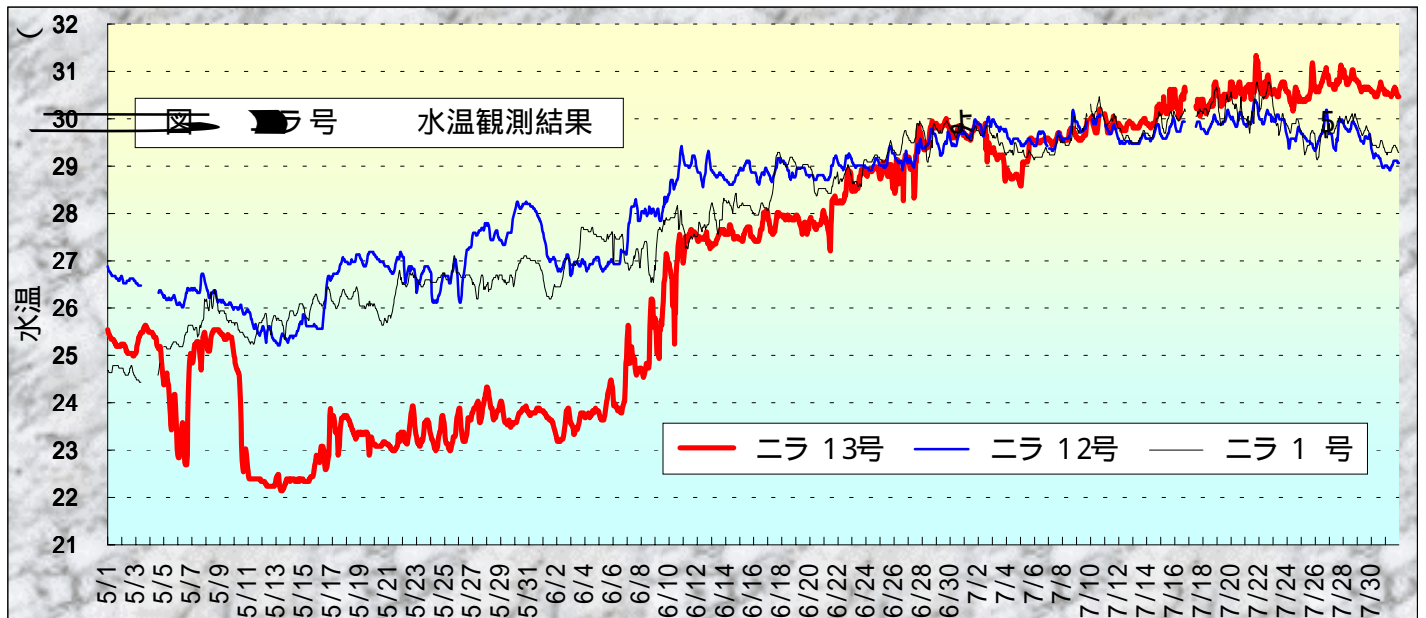


図5は、ニライ12号（石垣島北西）、13号（粟国島北）及び、15号（宮古島北西）における水深4mの水温観測結果です。粟国島北では5月中旬から6月上旬まで石垣島北西や宮古島北西と比べ低い水温でした。しかし6月中旬以降、水温は急激に上昇し、現在高い水準で推移しています。沖縄本島南部だけでなく、沖縄本島西部海域も高水温となっていることが分かりました。



1998年は台風の接近が極端に少なく、このことが高水温の一因となりました。1997年と1999年夏に沖縄本島に台風が接近した前後のP-8の水温は、水深50m程度まで水温が下がることが、これまでの観測で分かっています。今年も今後の台風の接近次第で高水温の傾向は変わるかもしれませんが、現在は1998年を上回る高水温が続いており、これがしばらく続く可能性も高いので、養殖漁家の方々は十分注意されるようにして下さい。